

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔二〕の 1 から 13 までとする。

※『ガリーブ詩集』の中にはいたる所にユーモアがある。これはガリーブの感覚の鋭さ、物の見方の深さを表すと共に、ガリーブのとった現実対処法と言つてよい。

ガリーブはムガル帝国が何世紀にも渡つて作り上げた文化の最後を見た人であった。その時代はムガル帝国が衰退して行く時であったが、文化の爛熟期らんじゅくであつたことは否定できない。人々はその文化に自信を持っていた。しかし爛熟と衰微のすき間に人々の自信aソウシツも見える。この現実と自らを調和させていくため、そしてまたさまざまな願望がジョウジュbしない中で、現実と対応していくため、ガリーブが自分に課したものがユーモアであつた。ガリーブにとって人生は思い通りに行かなかつた。しかしそれに興味を失うことはなかつた。

ガザル一一七一一（一八二二年以後）

① ほんでないつばみなど 遠くから見せるな こういう風にと

口づけを聞いているのだ 口で教えてくれ こういう風にと

恋人との口づけを誰もが望む。だがその願望の表現は難しい。口づけの仕方を恋人に聞けば実際に口づけをして教えてくれるかもしれないと、ガリーブは密かに期待して聞いてみた。だが相手は、花のつぼみを示して、ガリーブの願望をユーモラスに断っている。

ガザル一九〇一一〇（一八二二年～一八二六年）

美しき顔の人を望んでいるが アサドよ ※

② おまえは自分の姿を よく見てみるがいい

ガーリブもほかの男性と同じく、自分のことを抜きにして相手の女性に美しさを求めている。だがふと自分を振り返って見て、果たして自分はこれでいいのかと考える。美女を望む者は、自らもハンサムでなければと、ユーモアの精神が言わせている。

ガザル一四四―六（一八二一年以前）

目の絵を 手紙のボウトウに描いた

おまえが分かるように ③ あいつが会いたがっている

恋する者はいつも、その相手を見たい、会いたいという願望にかられている。その気持をガーリブは相手に出す手紙にまで表し、なぜ手紙のボウトウに目を描いたかを述べている。目の絵を描くことは極めて単純な行為であるが、その中にユーモアの精神の色が濃い。

ガザル四四―一（一八四七年以後）

⑦ ああ美しい妖精についての話とわれらの語りに魅せられて

とうとう恋敵になってしまった ④ われらの秘密を知った者が

① ガーリブが⑦その恋人のことを余りにもうまく話したものだから、ガーリブの何から何まで知っていた親友⑤まで恋敵になってしまったと、恋人の美しさだけでなく、自分の表現力のうまさを誇っている。

ガザル一四一七（一八五二年以前）

⑤ 戸口の所で待つようにと言ったが 言っただと思っただら心変わり

わが丸めてあったビスタルが開くか開かぬかの束の間に

ガリブも他の恋敵と同じく、路地をうろつく。そして恋人の許可があったら恋人の家の前に横たわってしようとの考えで、敷物ビスタルを持って出掛ける。恋人は家の前にいいと言ったが、その舌が乾くか乾かぬうちに、立ちのけと言う。ガリブは恋人のすばやい心変わりを、ユーモラスに敷物を引くか引かぬ間にと表している。

ガリブは④d ジン心の強い人で、自分の弱さ無力を容易に認めなかった。そこでガリブの前に立ちかかるものはガリブの諷刺の対象にならざるを得なかった。特に恋人や恋敵はガリブの諷刺の対象になった。それは、愛情面においてガリブの思い通りにならないことが多かったからであった。そして身の不運を嘆くガリブは、神や宗教にも不平や不満を抱き、それらも諷刺の対象にした。そればかりか、自らをも諷刺の対象にすることがあった。（中略）

ガザル三七一一〇（一八四七年以後）

⑥ 天使の記した記録簿で われらは不当に立たされている

われらの行為が記される時 誰か仲間がいるべきだった

わたしは多くの不幸に耐えねばならない。それは運命の書が書かれる時に、いい加減に書かれたからだ。わたしの不幸はその書いた者のせいだ。

ガザル二一―三（一八四七年以後）

⑦ おまえの体から分かった 約束がこわれやすかったのは

決しておまえにはこわせなかったはず もしも強かったら

おまえの約束がこわれたのは、弱い体でした約束だからだ。おまえの体は弱い、だからする約束も弱いのだ。約束がもう少し強いものだったら、おまえはこわすことはできなかった。しかしそういう約束を望むのはもとも無理な話、約束するのはおまえであり、その体は弱い。

ガザル二三―三（一八五一年）

⑧ 導師よ あなたは飲まない また誰にも飲ませられない

どんなにいい物なのか あなたの言うその天国の酒とは

導師はこの世で禁酒を説き、^eゼンコウの報いとして来世で酒が得られると説く。だが天上の酒とはこの世の酒とくらべてそんなにいいものなのか。ガリーブは導師をからかい、導師の考えには従わない。

（片岡弘次「ガリーブとその詩」による。ただし本文の一部を省略した）

※ガリーブ……ミルザ・ガリーブ（一七九七―一八六九年）。ムガル帝国時代のインドの詩人、ペルシャ語とウルドゥー語で詩集

「ガザル」を著した

※アサド……ガリーブ自身の愛称の一つ

問一 二重傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各項の中からそれぞれ選び、その番号をマークせよ。

1 ① ハッソウの転換 2 ユウソウする

3 意気ソウ 4 労働ソウギ

2 ② ジョウブツを願う 2 ジョウオンで保存

3 カジョウな期待 4 ジョウケイ描写

3 ③ ヨボウ接種 2 麦わらボウシ

3 ボウカン者 4 秘境のボウケン

4 ④ ソンボウを賭ける 2 ソンゲンのある生き方

3 シソンの繁栄を願う 4 ソントク勘定

5 ⑤ ザゼンの修行 2 サイゼンを尽くす

3 現場のホゼン 4 クウゼン絶後

問二 傍線部①はどのようなさまを表していると考えられるか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6 ⑥ まだ恋に目覚めていない相手の煮えきらない態度

2 これから恋に目覚めていきそうな相手の態度

3 自分と口づける用意のなさそうな相手の態度

4 恋が冷めてしまったような相手のそっけない態度

問三 傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 おまえは自分の本当の姿を知らず、いたずらに恋人を求めている
- 2 おまえは自分を棚にあげて、高望みすべきではない
- 3 おまえこそが、美しい顔の恋人に最もふさわしい
- 4 おまえが相手に釣り合うためには、ユーモアの精神を磨かなければならない

問四 傍線部③が指しているものとして、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 手紙に描かれた目が見ている相手
- 2 詩の書き手である筆者
- 3 恋人として書き手がつきあっている相手
- 4 語り手にとっての恋敵

問五 傍線部④にあたるのは、波線部⑦～⑩のうちどれか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

9

- 1 ㉗ ああ美しい妖精
- 2 ㉙ ガーリブ
- 3 ㉕ その恋人
- 4 ㉚ 親友

問六 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

10

- 1 恋人としてつきあっている相手を訪ねたら、家の戸口で少し待っているように告げられた
- 2 恋人にしたい相手を訪ねたら、本当はもう会う気などないのに戸口で待つように告げられた
- 3 恋人だと思っている相手を訪ねて行ったら、もうあなたには恋をしていないと告げられた
- 4 恋人にしたい相手の行方を追ってきたら、恋敵とともにいて自分には別れを告げられた

問七 傍線部⑥の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

11

- 1 私たちは不当な裁定をされている
- 2 私たちは不当に長い間立たされ続けている
- 3 私たちは不当な非難を浴びせられている
- 4 私たちは不当なまでに待たされている

問八 傍線部⑦の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

12

- 1 おまえの体が弱いことから、おまえが約束を守る気がなかったことがわかる
- 2 おまえの体が弱いことから、おまえが虚偽の約束をしたことがわかる
- 3 おまえの体が弱いことから、おまえが約束することができないのがわかる
- 4 おまえの体が弱いことから、おまえが約束を守れなかったことがわかる

問九 傍線部⑧の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 あなたが説く天国の酒とは、実際は虚偽ではなからうかと疑問を投げかけている
- 2 あなたが説く天国の酒が、本当は実在などしてないと断定している
- 3 あなたが説く天国の酒とは、さぞやいいものなんだろうねという皮肉をこめている
- 4 あなたが説く天国の酒が、いかにすばらしいものなのだろうかと賛嘆している

(二) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は (二) の 1 から 7 までとする。

「やっきは何が出た。(Unsay gawas ganina?)」

高齢女性が知り合いの中年女性の家を訪ね、お決まりのセリフを吐く。「何が出た」とは、数字くじの抽せん結果のことである。大抵、訊かれた当人が返答するか、知らなかったとしても周囲の人間が結果を知っていて、たとえば、「51だったよ。

また昨日と同じ数字が出た」などと返す。すると大体、「まあ！ 私の数字は50だった」などと会話が続く。^①この場合、高齢女性が実際に賭けていたのかいなかったのかはさて問題にならない。彼女の予想した数字が結果とニアミスしていたことが重要であり、さらに会話は周囲の人々を巻き込みながら盛り上がっていく。「なんで賭けなかったんだ」やら、「なんでそれを予想していたの」やら、数字をめぐる応答が続く。そしてまた、彼らは数字を買いに行く。

※調査地において、このようなコミュニケーションは決して稀なことではなく、人々は頻繁に数字に関する会話をしていた。

これは、来客との会話や井戸端会議、酒の席などの場面で天気や芸能人のゴシップを話すのと同じくらいのたわいなさ、日常感を帯びていた。彼らが熱中していたのは、数字くじラストトゥー (last two/lasto) だ。ミンダナオ島内で販売されるこの数字くじは、00から99までの2桁の数字を当てるという単純な賭けである。毎日欠かさず朝昼晩一日3回の抽せんがある。人々は2桁 (あるいは3桁) の数字を選択し、くじを購入し、100分の1 (3桁であれば1000分の1) の確率で抽せんされる結果を確認する。ただそれだけの極めてシンプルかつ純粋な「賭博」である。熱中度や参加度には濃淡があるものの、この単純な賭けにほぼ毎日参加する人々が調査地には一定数いた。

②私は当初、人々がハマっているラストトゥーの一体何が楽しいのか、さっぱりわからなかった。実際に、ニックやベスらが購入するタイミングに合わせて日常的に購入するようになり、継続すれば魅力がわかるのかもしれないと思って賭け続けたが、結局、私自身はまったく面白さを見出せなかった。これを書いている今も同じ心境である。まったくもってつまらない。なにせ賭博としても遊戯としても、そして暇つぶし・時間つぶしとしても、まったくもって魅力がない。ランダムに抽せんされる

2桁の数字を考える行為の中に、自分の力能が今、まさしく発揮されている！と悦に浸れる瞬間はどこを切り取ってもない。そもそも当たらない。当たったとしても、10ペソ賭けて700〜800ペソほどである。この金額は当たたらうれしいが、確率的には100回に1回しか当たらないのだから、大体は損をするわけであり、私にとっては、毎日賭けるほどの魅力には到底ならなかった。

しかし数字くじは、国を動かし、時には揺るがすほどに、フィリピンの大衆を魅了してきたのは事実である。(中略) 20世紀初頭から興隆した違法数字くじは、警察権力や地方政治家の資金源としてフィリピン全国に拡大した。運営を担うシンジケートは、地方権力者の庇護を受けながら、売人のネットワークを拡張することで販路を増やしていき、大衆がいつでもどこでも購入できる環境を整備していった。やがて国家リーダーがその利潤に目をつけるほどの巨大市場に成長し、2000年にはエストラダ大統領が違法数字くじ運営者などから2億2000万ペソにも上る献金を受け、政権が退陣する事態にまで発展した。数字くじ合法化を経て現在は、国家の重要な税収源となっている。この巨大市場を支えてきた／いるのは、日々小金を賭け続けるフィリピン全土の大衆層であり、具体的には、ニックやベス、リータのような調査地の人々だ。

なんでこんなにつまらないことに、みんな賭けているのだろう……。ラストトゥーに関する人々の日常実践について記述していく本章は、私の素朴な疑問を議論のスタート地点としている。数字を選んで当てるだけという、魅力的なゲーム要素が皆無に等しい「つまらない遊び」であるラストトゥーに、なぜ人々は賭けるのか。なぜその遊びに没頭しているのか。(中略)

「数字ある？」——「まだない (Wala pa)」 「探し中」、というフレーズは、ラストトゥーに賭けてみたいと思う稀有な読者は覚えておいて損はない。ニックに誘われたベスは、「まだ数字がない」ので賭けない、と返答した。「数字がない」とは、賭けるべき数字が思いつかない状態を指す。当せん結果は完全に偶然の 3 であるから、賭ける数字の選択はあてずっぽうでも構わないはずである。しかし、人々は「数字を持っている」とき、つまり賭けるべき数字が自分のもとに存在するとき、あるいは数字を見つけたときに賭けるのである。「まだ〔数字を〕探し中」というベスの発言のとおり、ラストトゥーの実践において、数字は探索される対象となる。では、いかにして人々は数字を探しているのだろうか。

数字の発見方法にはまず、数字の分析「アナライシス（analysis）」がある。これは、当せん数字の出目に法則性を探り、次に出る数字を予想する方法である。ラストトゥー愛好家の多くが、このアナライシスに熱中していると言ってもよい。一口にアナライシスと言ってもその方法は多様であり、個々人が異なる自己流の分析をしている。「昨夜の当せん数字の下1桁を絡めた数字を翌朝の抽せんに賭ける」（20歳代男性）、「ここ最近、2が連続して出ているから次も2を入れた数字に賭ける」（リータ）というように純粹に過去の当せん数字との連関から数字を予想する方法が基本である。当せん数字の規則性は、記号的な類似性や連関性などのイメージからも想起される。（中略）

さらに、競馬新聞さながら、数字予想新聞なるものも存在する。数字予想新聞は数種類が毎日発行され、ラストトゥーの売店に置かれている。表面には、数字が隠れている挿絵や、前日の当せん数字から導き出した本紙本命予想、そして予想新聞独自の「ロト・カレンダー」などが載っている。裏面には最近1カ月の当せん数字や、漢数字とアラビア数字の互換表など、数字予想のための情報があふれている。愛読者は、特に各紙独自のロト・カレンダーに穴が空くほど見入り、そこから数字を予想する。リータはしばしば、真剣な顔つきで数字を書きつけた自作のメモとロト・カレンダーを突き合わせ、賭ける数字を考え込んでいた。

これら一連のアナライシスは、当せん数字に隠された規則性を見出し、背後にある法則性を読み解くことで当せん数字を知ろうとする努力である。時に、公正公平であるとされる抽せんの仕組み自体に疑いの目を向けることにもなる。

「事例7―3」陰謀論に至る

昨夜に続きまたしても、朝11時の抽せんで64が出る。結果を知ったザルディは「またか。ひどい結果だ。本当にむかつくぞ。これがいづらのやり方なんだ」と腹を立てる。（2018/8/27 P市）

立て続けに同じ数字が抽せんされたことで、ザルディは、抽せんのシステムが何者かによってコントロールされているとの

考えに至り立腹していた。数字の書かれたボールを無作為に抽出する模様は定時にテレビで生中継されており、抽せんの公平性は担保されているようではある。それでも、数字の出目によっては人々の思考は陰謀論に結びつく。この陰謀論的な語りには同時に、陰謀の裏をかくアナライシスによって当せんに至ることが可能であるという解釈も含まれている。

また、夢（*damgo*）も極めて信頼度の高い数字の予想方法として用いられる。

「事例7―4」夢から数字を読み取る

朝6時15分。アダが朝ごはんを食べながら興奮して言う。「ねえ、夢を見た！ ATMでお金を下ろそうとして、暗証番号の1080を押してもお金が出てこない。1080を何度も押すのに、全然出てこない。何回も繰り返して、ふと気づいたらATMの後ろ側にお金がたくさん出てきてたの！」。するとベスが、「108、180だね。億万長者だわ、私たち」と含み笑いをしてささやき、朝食後に108と180を賭けに行く。（2019/10/14、P市）

数字が明確に登場する夢を見ることは、無意識下で個人が特定の数字を授かった状態であるとされ、ラストトゥーに賭ける絶好の機会となる。数字を連想することができるものや出来事に関する夢も、数字への解釈を通じて予想につながる。たとえば、クリスマスの夢ならば「25」、兄弟が登場する夢であればゾロ目の数字など、そのものや出来事が示唆する数字への賭けが妥当になる。

数字の読み取りと解釈は、夢の次元に限った話ではない。日常生活で目にするもの、耳にすることも同様に、人々は数字の意味を読み取る。テレビからふと視界に飛び込んでくる2桁の数字や、ままごと遊びをする子どもが発する数字など、数字が記号としてそのままあらわれるのならば、それは

5

ラストトゥーのサインとして理解される。数字のサインは自然の中にも潜んでいる。鳥の鳴き声やハンモックの揺れ、地面に転がる果物、木からぶら下がる蜘蛛――。自然の中のあるゆる存在から、数字の意味が読み取られる。この数字の意味解釈方法は、自己流もあるが、多くはラストトゥー愛好家の共通理

解となっている。「今日はやたらとあの木が目について離れない」となれば、それは数字を探るきつかけとなる。数字の意味は仲間や家族で話し合ったり、数字の意味体系に詳しい売人にアドバイスを乞うたりすることで解釈が深まっていく。^④ラストトゥーに没頭する人々においては、日常の「何か」との邂逅^{かいこう}が、すなわち数字との邂逅なのだと言えよう。

(師田史子『日々賭けをする人々』による。ただし本文の一部と小見出しを省略した)

※調査地……筆者はフィリピンのミンダナオにおける日常的な賭け行為をフィールドワークの対象としている

※シンジケート……本文においては、大規模な犯罪組織のこと

問一 傍線部①の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 結果とニアミスした数字を一刻も早く知ること、次の予想を考えるための時間が生まれるから
- 2 この高齢女性の回答は普段から信用ならないものであり、周囲の誰も関心を持つことはないから
- 3 数字くじを話題にすること自体が、人々にとっては一種のコミュニケーションとなっているから
- 4 周囲の人々にとって、当たることのない数字くじの存在はどうでもいい賭けにしか思えないから

問二 傍線部②の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 くじを当てるまで継続して購入するだけの資金を、十分に持っていなかったから
- 2 合法化されてもいまだにくじのリスクは高く、トラブルに巻き込まれやすいから
- 3 確率的にほとんど当たらないくじであるため、賭博としては成立していないから
- 4 自身の能力を介入させる場面を、賭けのプロセスに見出すことが難しかったから

問三 空欄 3 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 つきもの
- 2 たまもの
- 3 みせもの
- 4 とりもの

問四 傍線部③の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 くじの運営者側は、あからさまに作為的な当せん数字を出すことで人々をあざ笑っているから
- 2 数字の法則性を信じることに抽せんがコントロールされているという思考は、紙一重だから
- 3 すべての情報を入力しなければ数字の法則性が読めないという時点で、購入者側が不利だから
- 4 定時にテレビで生中継される抽せんの様子は、そもそも映像に信頼性が保証されていないから

問五 空欄 5 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 したたかな
- 2 のつびきならない
- 3 れっきとした
- 4 ぞんざいな

問六 傍線部④の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 数字の意味体系に詳しい売人からの日々の助言は、くじの当せんのためには必要な情報である
- 2 数字くじを熱心に買い続ける人々は、日々の生活で出会った物事に積極的な解釈を試みている
- 3 偶然に思いついた数字の意味について家族や友人と相談することが、人々の日々の目的である
- 4 ラストトゥー愛好家たちは、特定の木の様子を契機として数字の法則性を日々探し続けている

問七 本文の内容と合致するものとして、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 当初は違法の扱いだった数字くじは、地方権力者の庇護を受けつつ売人のネットワークが全国的に拡大し、現在は合法化を経てフィリピンの重要な税収源となっている
- 2 つまらないと思いつつ、調査地の人々のタイミングに合わせて仕方なく数字くじを購入していた筆者は、人々の動機を詳しく知ること最終的にその面白さを体感した
- 3 フィリピンの人々は日常的に「数字ある？」と尋ね合っているが、当せん数字の法則性は購入者にとって重要な秘密であるため、「数字がない」と嘘をつく場合もある
- 4 数字くじの当せん結果は何者かによって操作されていると人々は信じており、その陰謀を暴くために数字予想新聞やロト・カレンダーの情報を証拠として告発している

(以下 余 白)